

## 第55回中学生作文コンクール

都道府県別賞一等

生命保険が変えたこと

東京都 世田谷区立用賀中学校 二学年

白須 桜花

テレビのCMでしか生命保険と関わりがなかった私に転機が訪れました。昨年の秋頃のことです。私のお母さんが病気になりました。『お母さんがいなくなったら私はどうなるの？どうやって生きていくの？』心配で心配で仕方なかった私にお父さんは一つの話を始めました。

「僕もお母さんもね、生命保険というものに入っているから、万が一のことがおきても明日を生き抜くことはできるんだよ。」

“生命保険”というものは、何なのだろう。私にとってその言葉はとても興味深いものでした。お父さんは“生命保険”について私にたくさんのことを教えてくれました。その良いことも悪いこともです。“生命保険”とは、その人の人生の価値を定めるものであるのだとか、その人に万が一のことがおきたとき、周りの人やその人は助けられるんだとかです。私は想像してみました。お父さんとお母さんが二人で買い物に行ったとき、交通事故にあって亡くなってしまつたら。残されるのは弟と私の二人だけ。『そんなとき“生命保険”がなかったら、二人はどうなるのだろう？学校には行けるのか？』『“生命保険”があるというだけで、明日を、未来を生きていくことができます。きるかもしれないと思うと、その大切さがよく分かった気がします。

私は、その人の人生の価値をお金ではかるということが良いとは思いません。しかし“生命保険”のおかげで、救われた人々がいると考えると、それがあつて良かったと思います。

お母さんが病気になつて、私が“生命保険”に出会つてから、自分の中で変わったことがあります。それは、人を助けたいと思えるようになったことです。私は、小さい頃から人が手助けを求めていても何もしないような子で、何もかも自分さえ良ければいいんだと考えがちな子でした。人を助けるとは、人の命を助けることだけではありません。誰かの手伝いをする、困っている人を見つけたら声をかけること。全てが人を助けることだと思えます。

中学二年生となつた今、私は様々なことで人を助け、たくさんの方々の笑顔を見られるような人になりたいと思っています。私は“生

## 第55回中学生作文コンクール

命保険”というものに出会って、色々なことを学び、考えることができました。自分を大きく成長させた一つのきっかけだと思います。“生命保険”のように、人を助けられるような大きな人になりたいです。